

小さな一歩から始まる平和

浜田市立三隅中学校 二年 田中志侑

「平和」って言葉を聞くと、まず頭に浮かぶのは「戦争がない世界」だと、私は思う。

しかし、本当にそうだろうか。平和って、そんな遠くて大きい事だろうか。もっと近くにあって、もっと小さな事から始まるのではないだろうか。

私が、そう疑問に感じたきっかけは食卓で流れてきた戦争のニュースだった。それは、今、外国で起きている戦争の惨状についてだった。街が爆弾で焼かれ建物が倒壊していた。人々が逃げ回っている映像が流れていた。男の子が泣きながら母親の手をぎゅっと握りしめていて、その顔が頭から離れなかった。そこにいる人たちは、ただ生きるために必死になっていた。私は今、学校で友達と談笑する事が出来る恵まれた環境にいる。しかし、そのニュースの戦場が日本だとしたら、どうだろう。自分がそこにいと想像すると、急に不安と恐怖で胸が苦しくなった。その日から、平和について考える時間が増えた。

「戦争がない平和な世界の実現に向けて、自分に何ができるのか」と考えてみたが分からなかった。そんな時に、学校であった小さな出来事を思い出した。ある日の下校時の事だ。空は曇っていて、午後の授業が終わった頃から少し風が強くなってきた。友達と話しながら歩いていると、急に大粒の雨が降り出した。私は傘を持っていなかったの、急いで校舎に戻ろうとしたけれど、友達が「一緒に傘を差そう」と言って、自分の傘を差しだしてくれた。二人で傘の下に入ると、狭かったけれど、心はあたたかかった。びしょ濡れになるのを防いだだけではなく、友達が自分の事を気にかけてくれた優しさが嬉しく、安心感に包まれた。この友達の行動こそが「平和の実現」のヒントなのではないだろうか。

平和とは、戦争がない世界だけではない。相手の存在を認め、相手の立場になって考え、行動に移す。傘を差し出すという行動には、このような思いやりがあり、優しさとして私に伝わった。友達の優しさと、誰かに受け入れられている安心感が、私にとっての小さな平和だった。

私は電車を利用する時、よく年配の方や身体の不自由な方、妊婦さんや小さなお子さんに席を譲る。みなさん、私に「ありがとう」と、笑顔で会釈された。その笑顔は、私を幸せな気持ちにさせてくれる。そう、平和をもたらしてくれる。相手のことを思って行動することで、お互いの心が少しあたたかくなったと感じた。

いじめや差別は平和ではない。殴り合いがなくても、心の中が傷つく事はある。相手を無視したり、口撃したり、困っている姿を見て見ぬふりしたりする事、それは思いやりがない。そういった事が積み重なり、心に深い傷を負う事がある。平和は心の中にこそ必要だ。

人権とは「人が人らしく生きる権利」の事である。しかし、その権利は平和な環境がないと守れない。もし戦争が起きたら、学校に通う自由も、友達と笑う時間も奪われる。自分の意見を言う余裕すらなくなるかもしれない。だから、平和と人権は切っても切れない。

家で夕飯を食べている時、父がよくニュースを見ている。戦争や難民のニュースになる

と、「遠い国の事でも、私たちに関係あるのだぞ。」と言う。以前は意味が分からなかったけれど、最近やっと分かってきた。戦争があると物の値段が上がり、食べ物が手に入りにくくなったりする。それだけではない。戦争から逃げてきた人が日本に来ることもある。その人たちをどう受け入れるかも、平和を作る行動の一つなのだ。

思いやりとは平和の種みたいなものだと思う。相手の話を最後まで聞くこと、相手の立場になって考えること、困っている人を助けること、その小さな種を毎日まく人が増えると、もっと大きい木のような平和が出来る。

しかし、平和は何もしなかったら、続かない。歴史を見れば平和は簡単に壊れる。だから守ろうという意識を持たないといけない。今の私には、「戦争をなくす」という大きな事は出来ないだろう。だが、クラスの中で安心出来る空間を作る事なら出来る。

小さな思いやりの積み重ねが、平和な社会を作る。世界中の人が争わずに、安心して笑って暮らせる未来。それは、きっと私たち一人ひとりの小さな行動から生まれる。だからこそ私は、明日も友達や周りの人にちょっとした優しさを渡していく。そんな小さな一歩が、いずれは大きな平和に繋がると、私は信じている。